BUDŌ NEWS

今月のニュース

日本武道館武道学園
創立 55 周年記念演武会

川島佑斗講師（少林寺拳法）による技法紹介

藤巻宏講師（合気道）の指導者演武

2022 年
全日本選抜柔道体重別選手権大会

男子 81㌔級＝優勝の永瀬貴規選手（左）と準優勝の藤原崇太郎選手

女子 78㌔級＝優勝の濵田尚里選手（左）と準優勝の髙山莉加選手

武学

日本武道館武道学園

創立55周年記念演武会を開催

空手道

なぎなた

少林寺拳法

昨年4月に創立55周年を迎えた日本武道館武道学園の記念演武会が3月19日、日本武道館小道場で開催された。講師21名、生徒91名が参加。参加者はコロナ禍をはねのけるように、はつらつと演武を披露した。

記念演武会は、毎年年度末に開催している学園祭に替えて実施。学園自体も休園が長く続いたため、生徒たちにとって3年ぶりの演武の発表となった。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため2部制で実施され、生徒以外の観覧は、少年の部の保護者のみで、生徒1名につき1名とした。

演武会は第1部は午後2時に、第2部は同3時15分に開会し、両部と

剣　道

柔　道

3年ぶりに7種目112名が集い、コロナに負けずはつらつと演武

合気道

杖　道

も吉川英夫日本武道館理事・事務局長が学園長の代理として主催者挨拶をした。続いて各道講師の紹介があり、講師を代表して空手道の岡林俊雄講師（第1部）と、合気道の藤巻宏講師（第2部）が挨拶した。

次に皆勤賞9名、精勤賞14名、努力賞14名の表彰が行われ、生徒による開始宣言で演武が始まった。

第1部は、板張りの第2小道場で杖道、なぎなた、空手道、剣道が、第2部は畳敷きの第1小道場で柔道、少林寺拳法、合気道がそれぞれ順番に演武を披露した。各道とも8分間という普段より短い時間ながら、指揮者の号令の下、子どもも大人も日頃の成果を出そうと懸命に演武を行った。

閉会式では、剣道の佐藤成明講師（第1部）と、柔道の永福栄治講師（第2部）が講師代表の挨拶を行った。

第1部の最後には、令和3年度をもって退任する杖道の古川瞬也講師に感謝状が贈られた。古川講師は武道学園杖道教室開講の昭和47（1972）年以来、半世紀にわたって指導に当たった。4月より杖道には新たに力武公平講師が着任する。

吉川英夫
日本武道館理事・事務局長

第１部の開始宣言をする
七字ひろみさん（なぎなた）

第２部の開始宣言をする上野山敦さん（右）
と寺田萌華さん（少林寺拳法）

■学園長代理挨拶　吉川英夫日本武道館理事・事務局長

「武道学園が創立55周年を迎えられたことを大変嬉（うれ）しく思います。武道は日本の誇る伝統的な運動文化です。技術を習得する過程で思いやりや、潔さ、公正な態度を養うなど、人として生きることを習う道であります。そのことが高く評価され、中学校の体育の授業で武道が必修化されました。武道の評価は、我々、武道に携わる者が評価されることでもあり、これからも武道の魅力を多くの方々へ伝えていきたいと考えております。本日はその魅力を十分に発揮していただきたいと思います」

感謝状を受ける杖道の古川瞬也講師（左）

■退任挨拶　古川瞬也講師（杖道）

「武道学園の杖道教室は昭和47年に開設されました。当時私は30代の若輩でしたが、その時から講師の一人に加えていただきました。学園では普段の稽古のほかにも平成2年や4年には文化交流使節団として海外で武道交流を行いました。また、毎年夏には校外授業などもあり、あっという間に50年の歳月が経っていました。今日まで講師として武道学園に携わることができたことは私の大きな財産です。

最後に武道学園の子どもたちに講師として伝えたいことがあります。現在稽古している武道をいつまでも続けてください。これから訪れるさまざまな人生のステージでは続けることが難しい時もあります。しかし、その時はその時、長い目で見ればいいのです。長く続けたその先はきっとあなた方の人生にとって大きな財産になるはずです」

◉武道学園、55年の歩み

昭和41（１９６６）年４月25日に武道学園が開校し、一期生として柔道と剣道の52名が入学した。各種学校の認可を取得後に杖道教室を開設し、なぎなた、少林寺拳法、合気道教室を次々に開設した。平成４（１９９２）年、各種学校の認可を返上して新たに空手道を加え任意団体として再出発した。これまでの通算在籍者は１万人を数える。

令和元（２０１９）年９月、東京オリンピック、パラリンピックに伴う日本武道館の増改修工事のため武道学園は休園、１年後には改修された道場で再開する予定であった。しかし、コロナ禍によって、休園は令和３年９月までさらに１年の延長を余儀なくされ、武道学園は生徒数の確保などで厳しい局面を迎えた。その間、リモート授業の実施や広報紙「学園だより」の発行などを行ってきた。そして同年10月に待望の授業が再開された。

日本武道館武道学園 検索

空手道・岡林俊雄講師

合気道・藤巻宏講師

■講師代表挨拶（開会式）

岡林俊雄講師（空手道）

「普段、皆さんが講師から指導いただいている『心技体』を遺憾なく発揮し、素晴らしい思い出を作っていただきたいと思います」

藤巻宏講師（合気道）

「一昨年、昨年とコロナ禍で苦しい制約がありました。その中でも稽古を続けて、本日、それを発表する機会をもらいました。互いの演武をしっかりと見ることでいい大会になると思います」

剣道・佐藤成明講師

柔道・永福栄治講師

■講師代表挨拶（閉会式）

佐藤成明講師（剣道）

「55年という歴史を刻んだ武道学園で学ばれた先輩方は、武道学園の基本を誇りに今も修業を続けておられます。先輩方が築かれた学園の歴史と伝統を正しく受け継いで次の時代に繋げていきましょう」

永福栄治講師（柔道）

「日本武道館の武道学園で修業していることに誇りと自信を持ってください。一人一人が汗を流し努力することによって、新しい歴史が作られると思います」

好評発売中！

空手道 その歴史と技法

小山 正辰（こやま まさし） 和田 光二（わだ こうじ） 嘉手苅 徹（かでかる とおる） 著

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、共同執筆で紐解く。空手の真髄に迫る白眉の一冊。

四六判・上製・568頁・定価2,640円

◎ ご注文・お問い合わせ ◎

（公財）日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
https://www.nipponbudokan.or.jp

2022年
全日本選抜柔道体重別選手権大会

【81㌔級・決勝】永瀬（右）が大外刈で一本勝を決める

男子81㌔級

永瀬貴規（旭化成）が３年ぶり６度目の栄冠

女子78㌔級

濵田尚里（自衛隊体育学校）がオール一本勝で３度目の優勝

２０２２年全日本選抜柔道体重別選手権大会が４月２・３日、福岡国際センターで行われた。

男子81㌔級では、永瀬貴規（旭化成）が決勝で豪快な大外刈を決めて３年ぶり６度目の優勝を果たした。女子78㌔級では濵田尚里（自衛隊体育学校）が、得意の寝技が冴え渡り、決勝まですべて一本勝し、３年ぶり３度目の優勝を飾った。

試合は男女各７階級が行われ、各階級には全日本柔道連盟より選抜された８名の選手が出場。トーナメント形式により、国際柔道連盟試合審判規定で行われた。試合時間は４分で時間内に決着がつかない場合はゴールデンスコア（延長戦、以下ＧＳ）により勝敗が決するまで時間無制限で争われた。

同大会は10月６日からウズベキスタン・タシケントで開催される２０２２世界選手権大会の日本代表最終選考会を兼ねており、東京五輪の代表や各種大会のメダリストが出場し、注目を集めた。

また、大会ではコロナ対策を講じ、２０１９年以来３年ぶりに観客を入れて開催された。

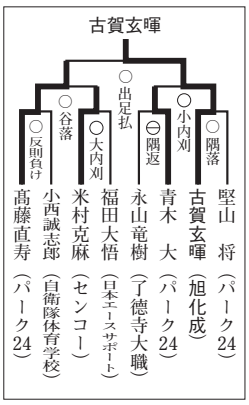
男子の部（４月３日）

■60㌔級

決勝は前回大会で優勝を果たした古賀玄輝（旭化成）と東京五輪金メダルの髙藤直寿（パーク24）による注目の一戦。序盤から前に出たのは古賀。得意の足技を仕掛けていく。試合が動いたのは開始から２分、髙藤が古賀の内股を躱そうと右足を前に出したところに古賀が合わせて出足払を決め一本。五輪チャンピオンを降す大金星で連覇を達成した。

◎古賀玄輝（旭化成）

「ここで勝たないと次はないと思っていたので、パリ五輪に進むためにも絶対に優勝するという気持ちでした。決勝はしぶとく攻めればチャンスができると思い挑みました。この大会で優勝し、自信に繋がりました」



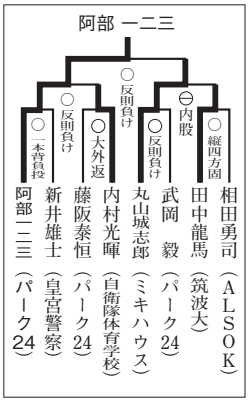
【60㌔級・決勝】古賀（左）が髙藤に出足払を決めて一本勝し、２連覇を決めた

■66キロ級

決勝は東京五輪金の阿部一二三（パーク24）と昨年の世界選手権覇者で阿部と五輪代表を争った丸山城志郎（ミキハウス）の因縁の対決。試合は互いに一歩も引かぬ展開が続き、本戦終了時点で阿部が指導1、丸山が指導2。

GSに入ると阿部が連続で足技や投技をかける姿勢を見せ、開始から6分38秒、丸山へ三つ目の指導が与えられ阿部が見事5年ぶりの優勝を果たした。

【66キロ級・決勝】積極的な試合運びを見せる阿部（左）



◎阿部一二三（パーク24）

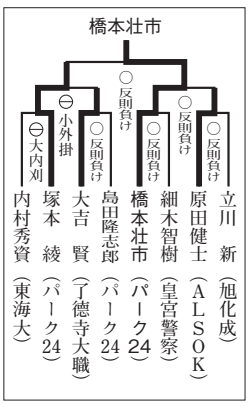
「今日は、五輪覇者として気持ちの上で余裕ができ、自分らしい攻める柔道を展開できたと思います。柔道家としてまだ強くなれると考えているので、世界選手権ではさらに成長した阿部一二三を見せたいです」

■73キロ級

優勝候補とされていた五輪王者の大野将平はけがのため欠場。決勝に勝ち上がったのは、昨年の世界選手権3位、橋本壮市（パーク24）とジュニア大会で優秀な成績を収めている塚本綾（パーク24）の同門の2人。序盤は両者探るような展開で、それぞれに指導1が与えられる。その後、橋本が前に詰め、塚本に二つ目の指導が入るものの、有効な技が出せずGSへ。

決着がついたのは開始から7分30秒、塚本が場外に出たことで指導3が宣告され、橋本が4年ぶりに王者を奪還した。

【73キロ級・決勝】橋本（下）がベテランの意地を見せて優勝



◎橋本壮市（パーク24）

「2位や3位が続いていたので、今日こそ絶対優勝したいと思っていました。負けは許されないので泥臭くても優勝すると決めていました。決勝は普段から共に練習している塚本選手だったので、長期戦になると思っていました。最後は技術より気持ちの戦いだったと思います。今年の世界選手権で優勝して、2024年のパリ五輪を目指したいです」

心技体 人を育てる総合誌
月刊 武道

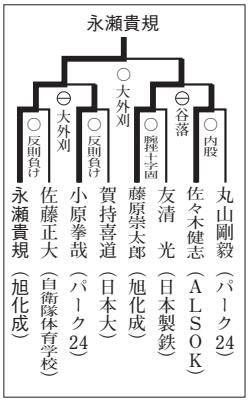
■81キロ級

五輪チャンピオンの永瀬貴規（旭化成）と2022グランドスラム・パリで優勝を果たした藤原崇太郎（旭化成）の決勝。73キロ級に続いて同門対決となった試合は、両者攻め切ることができず、それぞれ指導1のままGSへ。その後は徐々に藤原のペースに。勢いよく技を掛け続け、永瀬に二つ目の指導が与えられる。しかし、ここで永瀬が強さを見せる。開始から6分15秒、永瀬が藤原の奥襟を素早く摑んでそのまま大外刈を掛け、華麗な一本。見事、史上6人目となる6度目の優勝を果たした。

【81キロ級・決勝】永瀬（右）が冷静に試合を運び、見事優勝を果たした

◎永瀬貴規（旭化成）

「久しぶりに観客がいる中での試合でしたが、自分らしい柔道ができました。序盤は思うようにいきませんでしたが、ワンチャンスをものにできました。東京五輪の経験から冷静に試合を運べるようになったと思います。五輪の連覇は高い壁ですが、今の自分に満足することなく、まずは代表メンバーに選ばれるように頑張ります」



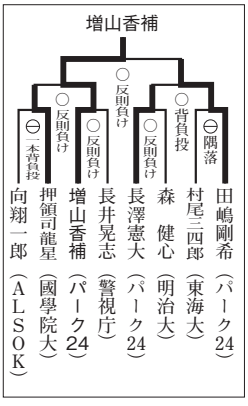
■90キロ級

昨年の覇者増山香補（パーク24）と準優勝の田嶋剛希（パーク24）という前回大会決勝と同一カードとなった。手の内を知っているためか両者前に出ることができず、GS20秒過ぎまでに指導2を与えられる。その後は徐々に増山のペースに。

そして開始から7分40秒、田嶋に消極的防御姿勢の指導が入り指導3となって試合終了。増山が2連覇を達成した。

◎増山香補（パーク24）

「ここでの勝ち負けは非常に重要な意味を持つため、絶対に勝つという気持ちでした。今回優勝し、ようやくパリ五輪に向けてのスタートに立てたと思います。少ないチャンスをしっかりものにしていきます」



【90キロ級・決勝】攻めの姿勢を見せる増山（左）

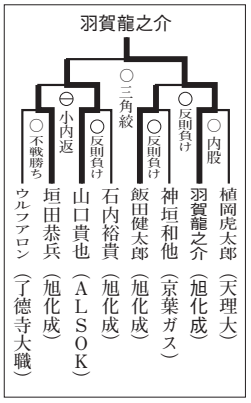
■100キロ級

3年ぶりの優勝を狙うリオ五輪銅の羽賀龍之介（旭化成）と世界ジュニア選手権で優秀な成績を収めている山口貴也（ＡＬＳＯＫ）の決勝。中盤、互いの動きを見ている両者に消極的指導が入る。その後、山口が攻めの姿勢を見せるも羽賀がこれを冷静に捌く。そして開始から3分35秒、羽賀は技を掛けようとした山口を崩して三角絞を仕掛け、一本勝。ベテランの羽賀が王座奪還を果たした。

【100キロ・決勝】羽賀（左）が三角絞で優勝に返り咲く

◎羽賀龍之介（旭化成）

「東京五輪の代表を逃し、また100キロ級で頂点に立ちたいと思っていたので、優勝できて嬉しいです。久々に観客がいる中で気持ちを切らさずに試合ができました。今は五輪に出場することよりも出場する大会に向けて頑張ることを目標にしています。自分がやり切ったと思うまで頑張り続けます」



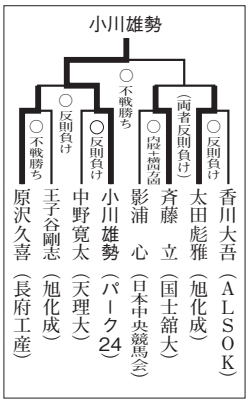
■100キロ超級

平成30年の本大会覇者である小川雄勢（パーク24）は準決勝で東京五輪代表の原沢久喜（長府工産）と対戦。原沢に指導3が入り、小川が決勝へ駒を進めた。しかし、もう一方の準決勝の斉藤立（国士舘大）と太田彪雅（旭化成）の対戦は両者反則負けとなったため、小川が不戦勝で優勝となった。

◎小川雄勢（パーク24）

「左膝のけがもあり、苦しい時期が続いていました。この大会には世界でもう一度戦うという意気込みで臨みました。もう一方の準決勝で反則負けとなった2人は強いのでぜひ決勝で対戦したかったです」

【100キロ超級・準決勝】小川（左）対原沢



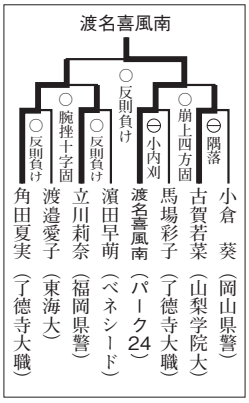
女子の部（4月2日）

■48キロ級

決勝は、東京五輪銀メダリストの渡名喜風南（パーク24）と昨年、ハンガリーの世界選手権大会で優勝した角田夏実（了徳寺大職）が対戦。本戦は両者有効な技が出せず、それぞれ指導2が与えられ、GSへ。

先に仕掛けたのは角田。渡名喜が裏に投げようとしたところに合わせて返し技を繰り出して技有の判定。しかし、渡名喜の技の失敗によるものと判定され、取り消しになった。決着がついたのは開始から10分47秒、渡名喜が得意の大内刈をかけて角田を後ろに崩す。その際、角田が両手・両肘で背中が床に着くのを防いだとして、指導3が与えられて試合は終了。冷静な試合運びを見せた渡名喜が見事初優勝を飾った。

【48キロ級・決勝】渡名喜（奥）が大内刈を仕掛ける



◎渡名喜風南（パーク24）

「今回の大会では相手が掛けてきた技を我慢して上手く自分の方に引きつけて戦うことができたと思います。東京五輪の決勝では雑な技が出てしまったので、今回は無理に技をかけようとせず、我慢強く組手を有利に進めることを考えました。

今後は五輪に固執することなく、一つ一つの大会で優勝することを目標に頑張っていきたいと思います」

■52キロ級

東京五輪金メダリストの阿部詩（日本体育大）は1回戦を勝ち上がるも昨年秋に手術した両肩のけがが完治せず、準決勝を棄権した。

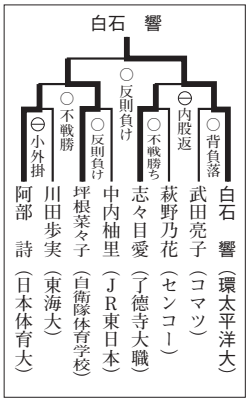
決勝は、白石響（環太平洋大）と昨年優勝を果たしている坪根菜々子（自衛隊体育学校）の顔合わせ。互いに右組みの相四つとなる。試合は序盤から白石が積極的に技を仕掛け、開始から1分30秒で坪根が指導

【52キロ級・決勝】白石（左）が攻めの姿勢を見せる

2を取られる。その後も白石が素早く足技や担ぎ技を仕掛け、試合開始から3分33秒、坪根が指導3となり試合終了。20歳の新鋭が初優勝を果たした。

◎白石響（環太平洋大）

「憧れていた大会で優勝することができて嬉しいです。準決勝で当たった志々目愛（ししめあい）選手（了徳寺大職）は正直怖くて組手も思い通りにできませんでしたが、最後に技を決めることができました。今後は世界で戦っていくことを考えてさまざまな勝ち方を研究していきたいです」



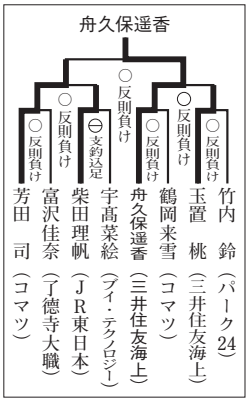
■57キロ級

前回優勝を果たし、昨年と今年、パリで開催されたグランドスラムで優勝している舟久保遥香（ふなくぼはるか）（三井住友海上）と東京五輪銅メダルの芳田司（よしだつかさ）（コマツ）の決勝。序盤から組手争いで舟久保は有利な形で試合を展開する。対する芳田は舟久保の動きに上手く対応できず、開始から3分37秒に指導2が与えられる。GS後も舟久保が前に出る柔道を見せ、開始から5分54秒、芳田に消極的だとして指導が与えられて舟久保の勝利。2連覇を達成した。

◎舟久保遥香（三井住友海上）

「正直投げて勝ちたいと思っていたので試合内容は悔しい結果でした。今回の大会ではしっかり組むことと誰が相手でも力を出し切ろうと思って臨みました。パリ五輪に出場したいと考えているので、これから出場する一つ一つの大会で今までやってきたことを出し切れるように頑張っていきます」

【57キロ級・決勝】舟久保（右）が自分のペースで試合を運び連覇達成

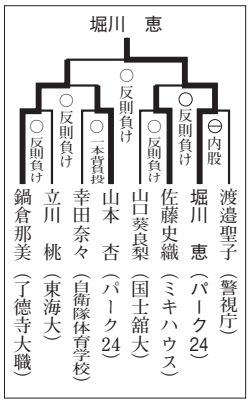


■63キロ級

決勝はグランドスラム2022テルアビブ優勝の堀川恵（ほりかわめぐみ）（パーク24）と前回覇者の鍋倉那美（なべくらなみ）（了徳寺大職）の対決。本戦では両者攻めきれずGSへ。先に技を仕掛けたのは堀川。積極的に足技で攻め立て、圧力をかけ、鍋倉に一つ目の指導が与られる。堀川は続けて大外刈をかけようとした鍋倉を崩し、関節技に移行するが鍋倉が逃げ切る。ここで鍋倉は指導2を受ける。決着がついたのは開始から10分、消極的姿勢だとして両者に指導が与えられて鍋倉が指導3となり試合終了。堀川が念願の初優勝を飾った。

◎堀川恵（パーク24）

「今大会での優勝が世界選手権出場への最低条件と考えていたので、絶対に結果を出そうと思いました。大会に向け選手一人一人についての対策を考えて反復練習をしてきたので、試合ではそれを出せたと思います。長い間やってきたことがようやく実を結んだと思います」



【63キロ級・決勝】堀川（右）が関節技で攻める

【70㌔級・決勝】田中（左）が同門対決を制する

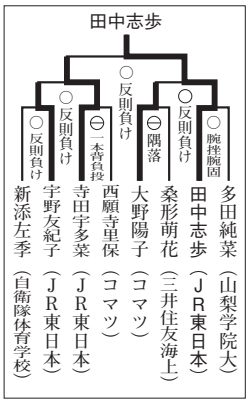
■70キロ級

決勝はグランドスラム2022テルアビブの覇者で昨年の皇后盃で優勝した田中志歩（ＪＲ東日本）と前回2位の寺田宇多菜（ＪＲ東日本）の同門対決。手の内がわかり合っているためか、なかなか技を繰り出すことができない両者。指導がそれぞれ二つ与えられた状態でＧＳへ。

試合が動いたのは開始から6分57秒、消極的な寺田に指導が入って決着。絶好調の田中が見事優勝を勝ち取った。

◎田中志歩（ＪＲ東日本）

「この大会は昨年、1回戦で敗れているので、初優勝できて嬉しいです。組手の上手い選手に勝つことができ、成長できたと実感しています。世界選手権代表に選ばれたら、外国の選手に組み負けないようにして優勝したいと思います」



■78キロ級

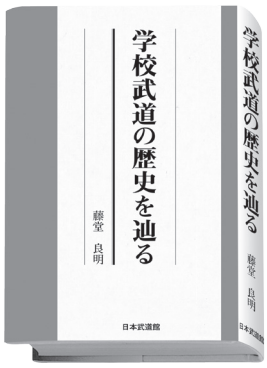
東京五輪で金メダルを獲得し、本大会でも準決勝まですべて得意の寝技で一本勝してきた濵田尚里（自衛隊体育学校）と、昨年の優勝者髙山莉加（三井住友海上）の決勝。先に仕掛けたのは髙山。立技や担技を仕掛け、濵田に指導1が与えられる。開始2分30秒、髙山が大外刈を仕掛けるも技が十分でないと判断されポイントにならず。しかし、その直後、一気に形勢が逆転。濵田は巴投に移ろうとした髙山の隙を捉え、得意の横四方固に抑え込むと会場からも拍手が湧いた。濵田の寝技から髙

日本武道館発行の単行本

学校武道の歴史を辿る

藤堂良明（筑波大学名誉教授）著　四六判・上製・354頁・定価2640円

江戸時代の藩学教育に遡る学校武道の歴史。明治維新を迎え武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度のなかに組み込まれ発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え「格技」として復活、平成24年には「中学校武道必修化」の完全実施が実現。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後の学校武道のあり方を探る。



◎ご注文・お問い合わせ◎

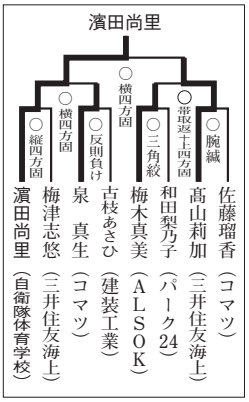
日本武道館　月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147　FAX 03-3216-5158
https://www.nipponbudokan.or.jp

【78㌔級・決勝】濵田（上）が横四方固を決め、オール一本勝で優勝を果たした

山は逃れることができず、濵田の一本勝。「寝技の女王」の力量を見せつける試合展開で3年ぶり3回目の優勝を果たした。

◎濵田尚里（自衛隊体育学校）

「決勝では攻められてばかりで自分の良いところが出せずに試合が進んでしまいました。最終的には寝技のチャンスを上手く摑むことができ、焦らずに試合ができました。技に関してはまだまだ課題が残っているので克服していきたいです」



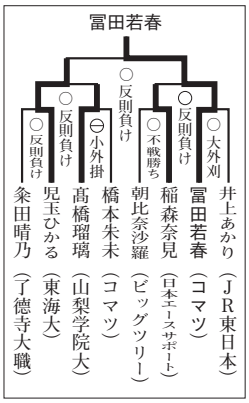
■78㌔超級

昨年優勝を果たしている冨田若春（とみたわかば）（コマツ）と昨年の皇后盃で準優勝の児玉ひかる（東海大）の決勝。開始から45秒、児玉が冨田の手を握って指導1が与えられる。さらに開始1分36秒、技を決め切ることができない両者に対し消極的姿勢で指導が与えられる。後がない児玉は技を仕掛けようとするも冨田がこれを上手く捌く。一方、冨田も足技を仕掛けるが決めきれず、3分2秒に再び両者に指導が入り、児玉が指導3となり、冨田が連覇を達成した。

【78㌔超級・決勝】冨田（右）が接戦を制し、連覇を達成

◎冨田若春（コマツ）

「1回戦から落ち着いて試合ができました。本大会での優勝が目標だったので、勝ち切れてよかったです。パリ五輪での優勝を目指しているので、出場する試合すべてに勝てるように頑張ります」



◇

男女それぞれの大会終了後、超級を除く男女12階級で2022世界選手権の日本代表選手が発表され、記者会見が行われた。各階級代表選手は次ページの通り。

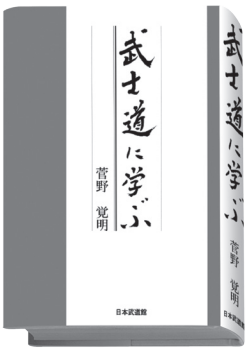
心技体 人を育てる総合誌
月刊 武道

日本武道館発行の単行本

武士道に学ぶ

東京大学名誉教授
菅野覚明（かんのかくみょう）著

日本倫理思想史研究の第一人者が「武士道」をわかりやすく説いた武道人必読の書。



第一章 武士道の大意
第二章 武士の流儀
第三章 実力世界のリーダーシップ
第四章 宗教的精神
第五章 仁義、忠孝
第六章 家族観、教育観
第七章 武士道と現代

四六判・上製・344頁・定価2,640円

◎ ご注文・お問い合わせ ◎

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
https://www.nipponbudokan.or.jp

男子内定者

階級	氏名	所属
60㌔級	髙藤　直寿	パーク24
66㌔級	阿部一二三	パーク24
	丸山城志郎	ミキハウス
73㌔級	橋本　壮市	パーク24
81㌔級	永瀬　貴規	旭化成
	藤原崇太郎	旭化成
90㌔級	増山　香補	パーク24
100㌔級	飯田健太郎	旭化成

女子内定者

階級	氏名	所属
48㌔級	渡名喜風南	パーク24
	角田　夏実	了徳寺大職
52㌔級	阿部　　詩	日本体育大
57㌔級	舟久保遥香	三井住友海上
63㌔級	堀川　　恵	パーク24
70㌔級	田中　志歩	ＪＲ東日本
78㌔級	濵田　尚里	自衛隊体育学校